

草加市立歴史民俗資料館

れきみんだより vol.17



“れきみん”は開館40周年を迎えました！
～みなさん、いつもありがとうございます～

“れきみん”は、埼玉県初となる鉄筋コンクリート造りの草加小学校西校舎を活用して、昭和58年(1983)11月1日に開館しました。以来、多くの方にご来館いただき、今年で40周年を迎えることができました。

表紙の写真は、開館時に草加駅前一番通り商店会の皆さんが通りに掲げてくださった横断幕です。近年も商店会のイルミネーションや「こどもたぬき絵コンクール」など、地域を盛り上げるため協働する機会も多いのですが、そのつながりには40年の歴史があります。

開館した頃の“れきみん”は、市指定文化財である手代町面芝居資料や農機具、草加せんべいの製

造道具など、民俗資料を中心に140点ほどの資料を展示していました。ちなみに現在は、草加宿や草加松原に関する歴史資料を含め、260点余りの資料を展示しています。展示資料が増えたのは、それだけ草加の歴史文化に関する調査研究が進んだことでもあり、展示にも40年の歴史があります。

40年の歴史を力に変えて、次の10年も多くの方々に草加の歴史文化を紹介していくため、常設展示の更新や、企画展・歴史講座・体験教室の充実に取り組んでまいります。

これからも草加の歴史文化を伝える“れきみん”を、どうぞよろしくお願ひします。

◆ 収蔵資料紹介 第17回 文芸雑誌『行動』



豊田三郎 昭和10年(1935)
提供：個人
『行動』の編集長を務めていた頃に撮影された写真です。

開館40周年を記念して開催した企画展「追憶ついでの豊田三郎とよだ さぶろう」では、南埼玉郡川柳村柿木みなみさいたま かわやぎ かきのき（現在の草加市）出身の作家である豊田三郎めいじ（明治40年[1907]～昭和34年[1959]）の生涯を紹介しました。

今回は、展示した資料の中から、豊田の事績を伝える資料の一つである文芸雑誌『行動』を紹介します。

文芸雑誌『行動』は、紀伊國屋書店の社長であった田辺茂一きのくにや たなべもいちが、新たに別会社である紀伊國屋出版部を創業して昭和8年（1933）に発刊した文芸雑誌です。昭和時代初頭、プロレタリア文学の壊滅を受けてた文壇では「文芸復興」の合言葉の下、純文学の再興を図るべく23もの文芸雑誌が各所から創刊されました。『行動』も田辺が当時新進気鋭の作家であった舟橋聖一ふなはしせいいち、阿部知二あべともじらと企図して立ち上げた新興雑誌であり、その編集長として招かれたのが豊田でした。

当時の豊田は東京帝国大学を卒業後、洋菓子店「虎屋」や鈴木三重吉主宰の児童雑誌『赤い鳥』に勤めたものの長続きせず、同人雑誌の舞台で細々と作家修業を続けていました。そんな豊田を編集長に推薦したのは阿部だったそうです。

創刊当初の『行動』は、一般的な文芸雑誌でしたが、創刊一周年を迎えると政治経済も扱う総合雑誌に転じます。同じころ、フランス文学者の

小松清こまつきよしが紹介した行動主義文学の考え方に共鳴し、『行動』の中で大きく取り上げることになりました。知識人はいかにして社会に関わるべきかを論じた行動主義文学は文壇でも大きな注目を集め、瞬く間に『行動』は行動主義文学の機関紙的な様相を呈していきました。

豊田も編集長を務める傍ら、昭和9年（1934）に『行動』で「リラの手紙てがみ」を発表して作家デビューします。翌年、『新潮』に発表した「吊花しんちよう」が文壇で評価されると、紀伊國屋出版部から同名の処女短編集を出版し、行動主義文学の若き旗手として注目を集めました。

文壇を席卷した『行動』ですが、豊田を中心にした編集部は4、5人程度の小所帯だったそうです。豊田の下で編集員を務めていた作家・野口富士男のぐちふじおは、後年『感觸的昭和文壇史』や臨川書店から復刻された『行動』の解説文の中で、安月給で忙殺されていたと当時を振り返っています。

『行動』は昭和10年（1935）に廃刊し、紀伊國屋出版部も倒産します。総合雑誌化の無理がたたった末の倒産でした。社長の田辺から廃刊を告げられたとき、豊田は野口の前で顔を手で覆って子どものように声をあげて泣いたそうです。豊田が情熱をかけて『行動』に携わっていたことがうかがえます。

◆れきみん歳時記（令和5年2月～令和5年5月）◆

歴史民俗資料館で開催した講座やイベントなどの取組を紹介します

2月 手作りおひな様♪



れきみん体験教室「おひな様を作ろう」を開催しました。毎年恒例となった人気体験教室では、今年も紙コップや千代紙を使ってかわいらしいおひな様を作りました。みなさん、お家でかざって桃の節句をお祝いしてくれたかな？

4月 れきみんの桜満開！



“れきみん”の中庭に植えてあるサクラが今年も満開になりました。満開のサクラはとてもきれいですね。来館された方が少し足を止めてサクラを眺めていたのが印象的でした。草加のサクラ名所にしたいですね。

3月 味と歴史を学ぶ



れきみん体験教室「草加せんべい手焼き体験」を開催しました。始めに第二展示室で草加せんべいの歴史を学んでから、中庭で手焼き体験を行いました。大好きな草加せんべいの味と歴史を学習出来て、皆さん大変喜んでいました。

5月 大きな鎧兜にびっくり!?



毎年恒例の企画展「端午の節句展」を開催しました。今回は実際に大人が身にまとうことができる大きなよろいかぶと鎧兜を展示しましたが、あまりの大きさに皆さん驚かれています。中庭のこいのぼりも空を泳ぎ、季節感あふれる光景となりました。

◆企画展の次回予告

タイトル：風景地でたどる『おくのほそ道』

開催期間：令和6年（2024）1月4日（㊟）～1月21日（㊿）

平成26年（2014）3月18日に、草加市を代表する景観である草加松原が国指定名勝「おくのほそ道の風景地」に指定されてから、10周年を迎えます。

松尾芭蕉が『おくのほそ道』に著した風景観を伝える26か所の風景地をパネルで紹介するとともに、『おくのほそ道』や草加松原に関する資料を展示します。



草加松原

◆れきみんブックレットを配布しています

“れきみん”では、草加の歴史・文化を多くの方に分かりやすく紹介するため、れきみんブックレットを発行しています。

最新号『草加松原のはなし』では、江戸時代から現代に至る草加松原の歴史に加え、草加松原内に設置されたモニュメントを紹介しています。

窓口で無料配布しています。ぜひ、ご覧ください。



草加市立歴史民俗資料館

facebook やってます！

皆さんに草加市の歴史や文化、資料館の活動を伝えたくて公式フェイスブックページを開設しています。様々な情報を発信してますので、ぜひ、ご覧ください！



草加市立歴史民俗資料館 🔍

市公式ホームページ内のSNSページ、または右の二次元コードからアクセスできます



【開館時間】 午前9時から午後4時30分まで

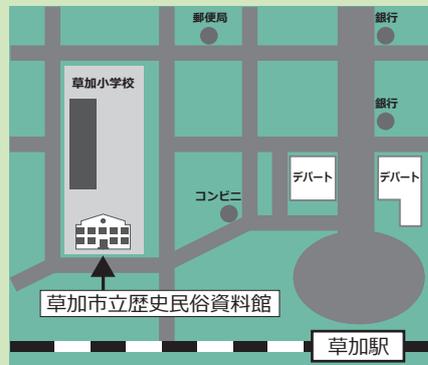
【休館日】 毎週月曜日（祝日または振替休日の場合は翌平日）
年末年始

【入館料】 無料

【住所】 〒340-0014 埼玉県草加市住吉一丁目11番29号

【問合せ先】 電話 048(922)0402 ファクス 048(922)1117

E-mail sokarekimin@city.soka.saitama.jp



東武スカイツリーライン「草加駅」下車東口徒歩7分
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

れきみんだより vol.17

発行日：令和5年（2023）12月20日 編集・発行：草加市立歴史民俗資料館